

令和3年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立日高特別支援学校高知みかづき分校

《高知県の教育の基本理念》	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく子どもたち (2)郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人材	《目指すべき姿》	学校像 ① 子どもたちが楽しく学べる学校 ② 保護者が安心して子どもを任せられる学校 ③ 地域にとってなくてはならない存在の学校 ④ 教職員一人一人が力を発揮できる学校	《児童生徒像》	「明るくたくましく生き抜く力をもった生徒を育てる」 ① 自己決定できる生徒(見つけよう! になりたい自分) ② 自ら就労を目指す生徒 ③ 生活習慣が確立し社会的行動ができる生徒 ④ 地域と連携し、貢献できる生徒	目 向 指 け す た け ば 組 姿 の 概 要 現 に	◎ ステップアップシートを最大限に活用した生徒の自立支援 ○ ステップアップシート取扱の習熟と改善、PDCAの確立 ・ 校内の学習と現場実習のPDCAの確立 ・ 生徒の社会的行動の確立とソーシャルスキルの確立 ※ SST、学級会議の開催、仲間同士の関わりの中で、人間関係の維持・形成を図る。 ○ 就労支援 ・ 作業学習の改善、職場見学、ビジネスマナー、地域の事業所での就労体験、現場実習先の拡大、新規作業種の設置準備 ○ 地域連携 ・ 地域のイベントへの参加、地域での清掃活動、ボランティア活動の推進
---------------	--	----------	--	---------	---	---	--

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組ねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
専門性の向上	① 全ての教師が、生徒一人一人の「実態を把握する力」及び「指導力」の向上を目指す。 ② 教師一人一人が、特別支援教育の専門性を高める。 ③ ICTを活用し、生徒にとって分かりやすく、主体的に参加しやすい授業づくりを行っていく。	【現状】 ① ステップアップシートに記載する、生徒のワークスキル及びソーシャルスキルの実態を見極める力を高める必要がある。 ① 作業学習等におけるキャリア教育の視点を踏まえた授業改善に取り組む必要がある。 ② 特別支援学校教諭免許状(知的)の保有率(72.2%・18名中13名)及び全領域(5領域)の保有率(17.6%・3名)を上げていく必要がある。 ③ 各授業でのICT活用は社会科、国語、職業、総合的な学習(探究)の時間で進んでいる。 【目標】 ① ステップアップシートによる実態分析力を向上させ、必要なソーシャルスキル獲得に向けて学校、家庭間で取り組む。 ② 専門家の助言をもとに、キャリア教育の視点を踏まえた授業改善を進める。 ③ 特別支援学校教諭免許状(知的)の保有率80%以上を達成する。加えて、全障害種(5領域)の免許状取得及び2種免許から1種免許への上進を進める。 ④ ICT機器を活用した授業の充実及びパソコンを使った双方向通信授業の取組を進める。	① 前年度に作成した最終のステップアップシートを活用し、学級及び作業班でそれぞれの生徒の強みと課題を共有したうえで、以後の実習等において統一した取組を行っていく。 また、実習後は、事業所より得られた評価から強み及び課題を確認し、学級と作業班で共通理解を図り、PDCAを回す。 ① 「キャリア教育戦略会議」を開催し、企業及び事業者から講師を招へいし、本校の作業学習等の取組について助言をもらう。 ② 認定講習等の申し込み及び免許の申請状況を確認していく。 ③ 全ての教師が、学習指導案や教材等のデータを共有し、それらを活用できるように、教材フォルダを作成する。 ③ 同一教室内で、双方向通信授業の試験運用を開始し、2学期からの本格運用を目指す。また、双方向通信授業で使用する教材開発を進める。	① 学級内での見極め(横のつながり)、作業種における見極め(縦のつながり)において協議を重ねていくことで、生徒の実態を見極める力の向上につながってきている。また、「校内研修会」において外部講師(高知大学 松本秀彦教授)からの助言を得ながら、シート自体の改善を行うことができている。実習後に得られた評価については、ステップアップシートに反映することはできている。 ① 「キャリア教育戦略会議」については、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、実施できていない。 ② 高知県教育委員会主催の認定講習や、通信教育を受講することで、単位の取得に取り組んでいる。[認定講習の受講者9名(16講座)・通信教育1名] ③ 「教材フォルダ」の作成は完了し、現在、学習指導案、教材を収集している。一働き方改革の項目に状況記載 ③ 県のGIGAスクールサポーターの助言を受けながら、今後配置される生徒用タブレット端末の効果的な活用方法について基礎・基本を学んだ。双方向通信授業の実現に向けた取組は、生徒用タブレット端末の配置後となる。	① 生徒の実態把握の精度をさらに向上させるため、教師の実態を見極める力の向上、様式の改善を行うため、外部講師の助言を受けながら研修を進める。ステップアップシートについては、様式や活用方法について、より実用的なものに向けて更に研修を進めていく必要がある。 ① 「キャリア教育戦略会議」については、感染症の状況を見ながら2学期の早い段階での実施を計画する。 ② 専門性の向上を目指し、通信教育などを積極的に活用しながら、特別支援学校教諭免許状の単位を取得する。 ③ 教材等の保存・活用について、今後も取組を進めていく。 ③ 生徒用タブレット端末の導入後すぐに活用できるよう、引き続き研修に努め、導入に備えていく。	① 外部講師の助言を受けながら、各教職員が、生徒の強みや課題を正確に把握するための力の向上に努めることができた。ステップアップシートの様式については、実用的なものになってきた。 ① 「キャリア教育戦略会議」については、実施できていないが、保護者・教職員を対象に一般企業から講師を招へいし、講演会を開催することができた。 ② 特別支援学校教諭免許状(知的)の保有率(85.7%)及び全領域(5領域)の保有率(52.4%)となった。 ③ ICT機器を活用した教材(パワーポイント教材)の教材バンクへの保存状況は、2/10現在102件となっている。12月末には、生徒用タブレット端末が導入されたため、また双方向の通信授業の実施には至っていない。今後、GoogleMeet等の活用方法について学んでいく。	・今後、ステップアップシートをどう保護者と共有できているのか、また、かなり良いものができているので、高等学校にも広げていくことが大切ではないかと考えている。高等学校でも生徒の離職に悩んでいる。ぜひ、県内の高校の先生がどう使えばいいのか、明記してリーフレットなどを作成してくれると、ありがたい。それをもって高校に薦めていきたいと思っている。学会への発表も積極的にしてもらえたらと思う。 ・前から、とてもよい取り組みをされているのを感じている。家でも、何を取り組めばいいのか分からないところがある。ステップアップシートを活用して学校での活動を少しでも教えて頂けるとありがたい。 ・通知票などにも、成果だけでなく、次学期への課題やそれに対するの手立てなども書いて頂けている。一人一人に向き合い、書いて頂けるのでありがたい。 ※ステップアップシートの改善、活用が進んできているのでB評価でいいのではないと思う。	① ステップアップシートの様式については、生徒・保護者・教職員で使用を重ねながら今後も改善に努めていく。 ① 「キャリア教育戦略会議」については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況等を確認しながら開催時期・方法を検討していく。 ② 教師の専門性の向上に向け、特別支援学校教諭免許状の取得率の向上に取り組んでいく。 ③ 生徒用タブレット端末(ChromeBook)の活用については、外部専門家の助言を受けながら取り組んでいく。また、教職員のスキルアップのため、研修会を実施する。
キャリア教育の充実	① 作業学習において、外部専門家から直接、生徒に指導・助言をしてもらうことで、より正しい知識・技能を身に付けられるようにする。 ② 学級や作業班の間でステップアップシートによる校内評価及び実習後の事業所の評価から、課題等の共通理解を図り、課題の克服と各スキルの向上を図る。 ③ 生徒数増加及び生徒の要望等に応えられる環境を整備していくために、新規作業種の設置準備を進めていく。	【現状】 ① JSP制度を活用し、外部専門家から職業能力(知識・技能等)向上のための指導・助言を受けられている。 ② 良好な人間関係の形成に課題があり、ソーシャルスキルの育成が必要である。 ・実習・進路先の確保(106事業所) ・企業就労率68.8%(16名中11名) [A型含む]→75%(16名中12名)] ・127回のアフターケアを実施してきた。 【目標】 ① 作業学習の精度を高め、生徒の知識・技能等の能力の向上を図る。 ② ステップアップシート等を活用し、生徒の職業スキル及びソーシャルスキルの育成を進める。 ② 一就労率80%以上、問題行動等0件とする。 ③ 教育課程検討委員会が新規作業種を「福祉」(仮名)と設定し、令和4年度より実施できるように準備を進める。	① JSP制度を活用し、外部専門家から、継続した職業能力(知識・技能等)向上のための指導・助言を受ける。 ② ステップアップシート(評価グラフ)を活用し、課題の見える化を図ることで、家庭の協力も得ながら、生徒の課題克服に取り組む。 ② 新規の実習・進路先の確保(10事業所以上)、アフターケアの充実(離職率は15%以下とする)。 ② 学級会議において、SNS、ソーシャルスキル、性に関する行動について、学級内でグループディスカッションを実施する。 ② ステップアップシート(ソーシャルスキル領域)を活用し、学校生活全般における生活習慣の指導の徹底に取り組む。(遅刻0%) ③ カリキュラムの編成と教場の整備計画を進めるとともに、作業内容の検討を行っている。 ③ 校外作業に協力していただける 外部機関の選定を行う。	① JSP制度による外部講師からの指導回数は、フードビジネス2回、物流実務4回、環境サービスクラス4回となっている。生徒の職業能力(知識・技能等)向上が認められている。 ※技能検定1級取得者:清掃部門9名、接客部門8名 ※アビリンピック金賞受賞者:ピルクリーニング部門1名、喫茶サービ部門1名 ② ステップアップシート(評価グラフ)へのデータ入力はできているが、データの分析についてはまだ十分に行っていない。 ② 就職アドバイザーと連携を深めながらそれぞれの生徒の希望にあった現場実習先の確保を進めることができる(8月末現在:新規事業所の開拓数7件)。 ② 卒業生へのアフターケアについては、適宜、行うことができる(8月末現在:アフターケア件数→66件)。 ② 学級会議では、生徒が議題を提案するなど活発な意見交換の場となっている。 ② ソーシャルスキルの育成については、学級や作業グループにおいて、その都度、生徒同士で話し合いを行うことができている。 ③ 新しい作業内容の検討については、まだ十分に行うことができている。	① 今後も外部専門家の指導・助言を受けながら、生徒の職業能力の向上に取り組んでいく。 ② 2学期以降は、生徒・保護者等に「見える化」したグラフを提示し、課題克服に向けて取り組む。 ② 今後も就職アドバイザーとの連携を密にこころ、進路先の選択肢を増やし、適切な進路指導につなげる。 ③ 緊急性の高いアフターケアにも対応できるように今後とも関係機関との連携を密にこころ。 ② 各クラスの学級会議の議題や運営方法等についての学年・学部間で情報共有を行い、更なる活性化に努める。 ③ 特別支援学校卒業生が就労先で、さらに検討を進めていく。	① JSP制度の活用により、外部専門家から指導・助言を受けることができ、生徒の職業能力向上につなげることができた。また、学校の方との交流により、卒業後の社会を意識するきっかけにもつながっている。 ② ステップアップシートの評価のグラフ化により現状の把握(見える化)に活用しようとしていたが、次の目標やその目標に向けた取組を提示していくことが望ましいとの判断から、今回はグラフ化を見送り、具体的な内容を示した表を活用していくこととした。ステップアップシートより実用的・効果的なものにしていくために、使用しながら更なる改善に取り組む。 ② 新規実習・進路先の開拓は、12月末現在で83事業所となっている。また、卒業生への支援については適宜、行うことができる。(2月1日現在:アフターケア136件、ケース会12件) ② 学級会議は、活発に行うことができている職種や傾向を分析しながら、さらに検討を進めていく。	・JSP制度を使った学校訪問は、新型コロナウイルス感染症防止対策のため、延期になることがあった。アビリンピックに出席していたが、今年度は特にみかづき分校の生徒は、優秀な成績を納めることができていた。みかづき分校の生徒は、全国レベルの生徒たちであると考え、製品(パン・ケーキ)も良いものであると感じる。専門学校と一緒に作業しても大丈夫な子どもたちに見える。十分、目標も達成していると感じた。 ・アフターケアをしながら卒業生の定着率を調べることが重要である。障害者就業・生活支援センターの役割として、今までは、障害者(卒業生)を中心に考え、企業に就職できるように支援を行ってきたが、今は、障害者雇用を行った企業へ定着支援を行うようにと支援方法が大きく転換された。また、国から新型コロナウイルスを理由に職場定着率を下げてはいけないといわれている。卒業したら、支援機関が限られてくるので、学校在学時にしっかりと職場定着できるように支援をしてもえらんとありがたい。 ※目標が達成できていると思われるのでB評価でいいのではないと思う。	① 今後もJSP制度を活用しながら、より専門的な職業能力(知識・技能等)の育成を目指す。(継続) ② ステップアップシート検討会を定期的に開催し、活用状況の分析、情報共有を行う。 ② 就職アドバイザーとの連携を密にこころ、新型コロナウイルスの影響も含めながら進路先の開拓を目指す。 ③ 新型コロナウイルスの影響も踏まえながら卒業生の進路先に必要なスキルを育てる作業種を検討していく。
学校設定項目	地域における清掃活動やボランティア活動等の貢献活動を通して、生徒の自己肯定感を高めるとともに、働くことに対する意欲を育てていく。	【現状】 ① 商店街での清掃活動は、週当たり2回実施している。 ② みかづき祭り、よさこい祭り(清掃、給水ボランティア活動)、ハウインフェスは、開催されなかったため不参加。 【目標】 ① 校外での作業活動(清掃)の推進 ② 地域社会への貢献(地域のイベント参加率の向上)に努める。 ※「社会貢献意欲」の向上と「働く」ことの意味理解につなげる。	① 生徒集会、PTA総会などの年度初めの行事において、地域社会への貢献活動の実施及び参加の要請を行う。 ① 地域での清掃活動を週当たり2回実施することで、本校の取組をアピールし、障害者に対する理解・啓発に努める。 ② 生徒会に地域での貢献活動について協力を呼びかけ、生徒たちによる協議のもと、生徒の主体的な貢献活動を形成していく。	① 公民館及び駅周辺については、週1回程度、清掃活動を行うことができている。 ① ② 新型コロナウイルス感染症防止対策のため、地域での十分な活動を行うことが難しい状態にある。	① ② 新型コロナウイルス感染症の状況を確実しながら、どのような活動ならできるか検討を行い、地域貢献に努める。	① 新型コロナウイルス感染症の状況を確実しながら地域での清掃活動に取り組んだ。(RKC調理製菓専門学校、公民館等:14回) ② 地域のイベントについては、中止のため参加できていない。	・商店街で清掃活動をしてもらえなかった。商店街側から生徒たちに感謝の気持ちをつかめと。生徒の自己肯定感が育つようになってきた。子どもたちといろいろ取り組んでいきたい。 ・新型コロナウイルス感染症対策のため、商店街の方と生徒のふれあいが2年間できなかった。何かイベントだけでも、他の開き方も考えていくことが必要だと感じた。 ・専門学校の清掃活動をしてもらって感謝している。専門学校でも、コンテストなどのイベントが軒並み中止となっている。みかづき分校も、学校行事はいろいろと苦勞されていると思う。 ・高P連でみかづき分校が、ヘルメット着用の取組や地域への貢献などで、今年特別表彰を頂いていた。学校が日々努力をされていると感じている。	① ② 今後も新型コロナウイルス感染症の状況を注視し、どのようにすればできるかを地域とも話し合いながら、地域における清掃活動やボランティア活動等の貢献活動を続け、生徒の自己肯定感を高めるとともに、働くことに対する意欲を育てていく。
働き方改革	健康で活性化された職場づくりに努める。	【現状】 ① 分掌業務の平準化と引継ぎによる役割の分散が十分ではない。 ② 指導案、教材等の共有化が未整備 ③ 時間外勤務時間の平均(20.1時間) 【目標】 ① 分掌業務の平準化と役割の公平化を進める。 ② 教科指導に関する情報の共有化を図るために、学習指導案・教材のデータの共有化を進める。 ③ 時間外勤務時間の削減を図り、月当たり40時間以下とする。	① ③ 分掌業務の平準化を進め、時間外勤務時間の削減を図る。 ② 共有フォルダ内に教材フォルダを作成し、学習指導案及び教材のデータを保存していくことで、全教職員の共有財産化を進め、業務の効率化を図る。 ③ 長期休業中に学校閉庁日(一斉休業日)を設定し、リフレッシュのための休暇の取得を促進する。	① 分掌業務の平準化については、管理職の指示のもと、各分掌において業務内容・業務量の確認及び情報共有を行い、業務の調整に取り組んだ。 ② 「教材フォルダ」による教科指導に関する情報の共有化は、まだ十分とは言えないが、教材等が少しずつ集まってきたり、実際に利用している教員もいる状況となっている。 ③ 8月に3日間の学校閉庁日を設定し、全教職員の休暇取得を促した。また、時間外勤務については、月40時間以下を守ることができている。	① 分掌業務の平準化については、学校全体で意識して今後も取り組んでいく。 ② 今後とも、「教材フォルダ」への学習指導案及び教材等の収納を呼びかけていく。 ③ 9月1日より「機械警備」が導入された。	① 分掌業務の平準化についての意識は向上してきたが、まだ十分には行っていないため今後も取り組んでいく。 ② 「教材フォルダ」については、活用することができているが、業務の効率化につながっていない。 ③ 学校閉庁日については、全教職員が休暇を取得し、休養することができた。また、機械警備の導入により、退勤時間を意識して業務を行うことができるようになった。	・分掌業務の平準化を進めるためには、仕事内容の数値化とかが必要ではないかと思う。 ※分掌部長の負担の改善がまだできていないため、B評価でいいのではないかと思う。	① 各分掌の業務内容について、取り出し確認を行い、それぞれの業務の担当分掌や配置人数について再検討する。また、副部長を配置し、部長の補助や引継ぎが行える体制をつくる。 ② 「教材フォルダ」内のフォルダやファイル名(日付・内容を記入する等)を統一し、更に活用しやすいものに精選していく。 ③ 引き続き、業務の効率化に取り組む、時間外勤務時間の削減を図る。